

2014年7月22日

**プレスリリース**

本資料は7月22日にチューリッヒで発表されたプレスリリースの翻訳版です

**クレディ・スイス・グループ**

**2014年第2四半期業績および同年上半期業績を発表**

**クレディ・スイス・グループの2014年第2四半期業績：**

**戦略的事業のコア税引前利益 17億6,700万CHF、株主資本利益率 13%**

**公表コア税引前損失 3億7,000万CHF、先に発表した、すべての未解決の米国クロスボーダー問題の最終的な和解に関連する費用 16億1,800万CHFの計上を反映**

**クレディ・スイス・グループの2014年上半期業績：**

**戦略的事業のコア税引前利益 37億700万CHF、株主資本利益率 13%**

**公表コア税引前利益 10億3,000万CHF**

**2014年第2四半期末現在のルックスルーのCET1は9.5%、2014年末までに10%を超えるという目標に向かって順調に推移**

**当四半期のプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業：強力な新規純資産 118億CHFの獲得を受けて、強靱な業績**

**2014年第2四半期のインベストメント・バンキング部門の業績、好調な金融商品発行業務、引き続き好調な信用商品及び証券化商品業務並びに資本効率化を反映**

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業、減収となったものの、引き続き効率性アップ：

- ・ 第2四半期の戦略的事業の業績、強靱な収益力を示す。税引前利益 8 億 8,200 万 CHF、大変好調であった前年同期に比べ 13%減、資本利益率 28%
- ・ 第2四半期の公表税引前損失 7 億 4,900 万 CHF（すべての未解決の米国クロスボーダー問題の最終的な和解に関連する費用 16 億 1,800 万 CHF の計上を含む）
- ・ 戦略的事業の費用効率化、上半期に一段とアップ、前年同期の 71%から 68%へ改善
- ・ ウェルス・マネジメント顧客事業の上半期のネット・マージン、28 ベーシスポイント (bp) へ改善、費用削減の大幅な進捗がサポート
- ・ ウェルス・マネジメント顧客事業の 2014 年第2四半期のグロスマージン、99 bp、2014 年第1四半期に比べ 5 bp 減、運用資産の増加、顧客構成の変化、フィー・ベースの収益の減少、純利息収入の若干の減少を反映
- ・ 戦略的事業の 2014 年第2四半期の新規純資産、資産基盤の整備の大幅な進展により西欧地域のクロスボーダー事業から引き続き 29 億 CHF の資産が流出したにもかかわらず、118 億 CHF の好調な獲得、年率換算成長率 4%；西欧地域のクロスボーダー事業から合計 41 億 CHF の資産が流出したため、新規純資産合計は 101 億 CHF。

インベストメント・バンキング部門の業績、多角的な戦略的フランチャイズの安定性を反映：

- ・ 戦略的事業における税引前利益 10 億 3,400 万 CHF、資本利益率 18%：債券利回りフランチャイズ及び引受業務の好調な業績が、株式販売及びトレーディング業務が取引状況があまり有利に働かなかったこと、グローバル・マクロ商品が引き続き振わなかつたことによって一部相殺
- ・ 公表税引前利益 7 億 5,200 万 CHF：主要事業の好調な業績、非戦略的事

**業ユニットの漸次縮小の加速化による**

- ・ 部門全体の上半期の資本利益率、戦略的事業ベースで 20%、公表業績ベースで 13%と堅調
- ・ マクロ事業の再編（コモディティ・トレーディング事業からの撤退を含む）により、資本及び業務のさらなる効率化を図り、最終状態までに、約 2 億米ドルの費用節減、80 億米ドルのリスク加重資産削減、250 億米ドルのレバレッジ・エクスポージャーの削減を目指す

米国クロスボーダー問題の解決の影響にもかかわらず、2014 年第 2 四半期末現在の資本基盤及びレバレッジ比率は強靱：

- ・ ルックスルーの BIS CET1 比率 9.5%、資本強化措置実施の進捗により、訴訟問題解決の影響を十分軽減できる見通し、年末までの CET1 比率 10%超達成に向けて順調に推移（2014 年度の未払配当金の継続計上を含む）、ルックスルーのスイス国内自己資本比率 15.3%
- ・ 2014 年第 2 四半期末現在のレバレッジ・エクスポージャー 1 兆 1,560 億 CHF。2014 年第 2 四半期末現在の段階的实施のスイス国内レバレッジ比率 4.8%、2014 年第 2 四半期末現在のルックスルーのスイス国内レバレッジ比率 3.7%。2019 年の 4 %要件は達成圏内

コスト削減目標に向かって引き続き進展：

- ・ 2011 年上半期年率換算ランレート対比調整済み年率換算費用削減額は 34 億 CHF となり、2015 年末までの費用削減目標 45 億 CHF 超の達成に向けて引き続き勢いを維持。

非戦略的事業ユニットの漸次縮小及び過去の訴訟問題の解決に進展：

- ・ インベストメント・バンキング部門の非戦略的事業ユニットにおけるスイス国内レバレッジ・エクスポージャー30 億米ドル削減、リスク加重資産 60 億米ドル削減で、ユニット縮小スケジュール前倒し
- ・ 2014 年に入り第 2 四半期末までに過去の主要訴訟問題の解決に向けて大幅な進展

クレディ・スイス・グループは、2014年7月22日、2014年第2四半期業績を発表しました。

今回の発表について、最高経営責任者（CEO）のブレイディ・ドゥーガンは、次のように述べました。

「2014年第2四半期及び上半期の当社の公表業績は、従来から最も重大であった訴訟問題の解決によって影響を受けました。第2四半期中、引き続き顧客取引に良い勢いが見られた一方、非戦略的事業ユニットの漸次縮小にもさらなる進展がありました。一部の分野で顧客取引活動が不振に陥り、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント、インベストメント・バンキングの両部門に影響を与えたにもかかわらず、当社の戦略的事業の業績は堅調で、当社の事業モデルの強靱性が実証された格好となりました。」

「5月に発表したすべての未解決の米国クロスボーダー問題が最終的に和解し、当社にとって最も重大かつ長期的な訴訟問題に幕を下ろすことができました。今回の和解につながり、当社が全面的に責任を有する過去の過ちについて深く遺憾の意を表します。お客様の当社に対する信頼とご支援によって、今回の和解が当社の事業に及ぼす影響を軽減することができました。当社は、目下、資本基盤強化措置を実施中であり、年末までにルックスルーCET 1比率を10%超にまで高めるという目標に向かって順調に推移しています。これには、2014年度の未払配当金の継続計上も含まれています。10%を達成した後は、長期目標である11%の達成に向けて資本を引き続き漸増しつつ、年間配当を通じて、当社の利益の約半分を株主の皆様に還元する意向です。」

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門について、「2014年第2四半期には、戦略的事業から118億CHFという強力な新規純資産を獲得しました。これは、当社が事業を展開するうち、アジア太平洋地域とスイスの両主要市場の成長によるものです。この成長を、西欧市場のクロスボーダー事業からの資産流出が上回りました（同事業については、資産基盤の整備に積極的な措置を講じています。）。これは、クロスボーダー・ウェルス・マネジメント事業の長期的な変革の一環です。第2四半期中に、当社は、営業費用の削減によって当社の戦略的事業の一層の効率化を図り、これによって、取引活動の低迷と長引く低金利環境が当社の業績に及ぼす影響を軽減することができました。」

インベストメント・バンキング部門について、「同部門は、2014年第2四半期には、堅調な業績を上げることができましたが、これは、好調な金融商品発行業務、債券利回りフランチャイズの継続的な勢い、第1四半期と比べて資本効率性が向上したことによるものです。マクロ事業の再編（コモディティ・トレーディング業務からの撤退を含みます。）によって、資本、レバレッジ及び経費の一層の削減が促進されるものと期待されます。当社の戦略的事業の資本利益率は、2014年第2四半期に18%、2014年上半期に20%を記録し、当社の多角的な戦略的フランチャイズの安定性を実証しています。」

## コア業績サマリー

本業績リリース（株主資本利益率及び資本利益率の記載内容を含みます。）に記載されている財務情報に関する追加情報については、当社ホームページにある決算リリースの付属資料

（Appendix）の開示財務諸表及び18ページの「重要な情報（Important Information）」セクションにおける資本及びレバレッジ関連指標に関するその他の開示説明資料をご覧ください。

**コア業績ハイライト**

	期/期末			増減率(%)		期/期末		増減率(%)
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>公表業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
純収益	6,433	6,469	6,830	(1)	(6)	12,902	13,848	(7)
貸倒引当金繰入額	18	34	51	(47)	(65)	52	73	(29)
営業費用合計	6,785	5,035	5,239	35	30	11,820	10,430	13
継続事業からの税引前利益 / (損失)	(370)	1,400	1,540	-	-	1,030	3,345	(69)
株主に帰属する純利益 / (損失)	(700)	859	1,045	-	-	159	2,348	(93)
<b>指標 (%)</b>								
資本利益率	-	14.4	14.6	-	-	5.3	16.5	-
費用 / 収入比率	105.5	77.8	76.7	-	-	91.6	75.3	-
<b>戦略的事業業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
純収益	6,324	6,553	6,795	(3)	(7)	12,877	13,813	(7)
貸倒引当金繰入額	25	18	23	39	9	43	39	10
営業費用合計	4,532	4,595	4,685	(1)	(3)	9,127	9,480	(4)
継続事業からの税引前利益	1,767	1,940	2,087	(9)	(15)	3,707	4,294	(14)
株主に帰属する純利益	1,282	1,398	1,455	(8)	(12)	2,680	3,034	(12)
<b>指標 (%)</b>								
資本利益率	19.2	21.7	21.7	-	-	20.5	23.3	-
費用 / 収入比率	71.7	70.1	68.9	-	-	70.9	68.6	-
<b>非戦略的事業業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
純収益	109	(84)	35	-	211	25	35	(29)
貸倒引当金繰入額	(7)	16	28	-	-	9	34	(74)
営業費用合計	2,253	440	554	412	307	2,693	950	183
継続事業からの税引前損失	(2,137)	(540)	(547)	296	291	(2,677)	(949)	182
株主に帰属する純損失	(1,982)	(539)	(410)	268	383	(2,521)	(686)	267

注: 上記コア業績には、重要な経済的持分を持たない非支配持分は含まれておりません。

2014年第2四半期の株主帰属純損失は7億CHFでした。

2014年第2四半期の税引前損失は、3億7,000万CHF(前年同期は、15億4,000万CHFの税引前利益)となりましたが、これは、主として、すべての未解決の米国クロスボーダー問題が決着したことに関連した費用16億1,800万CHFの計上によって、営業費用合計が30%増加したことによるものです。戦略的事業の2014年第2四半期の業績は、税引前利益17億6,700万CHFとなり、前年同期を15%下回りました。また、非戦略的事業の業績は、税引前損失21億3,700万CHFでした。

2014年第2四半期の純収益は、64億3,300万CHFで、前年同期を6%下回りました。戦略的事業の純収益は、63億2,400万CHFで、前年同期を7%下回り、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント、インベストメント・バンキングの両部門とも収益は前年同期を下回りました。非戦略的事業の2014年第2四半期の純収益は、前年同期を211%上回る1億900万CHFでした。

2014年第2四半期の貸倒引当金繰入額は、1,800万CHFで、これは主として、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の正味引当金の計上が、インベストメント・バンキング部門の引当金の一部取崩しによって一部相殺されたことによるものです。

2014年第2四半期の営業費用合計は、67億8,500万CHFで、前年同期を30%上回りましたが、これは主として一般管理費が84%増加したことによるものです。戦略的事業の営業費用合計は、45億3,200万CHFで前年同期を3%下回りましたが、これは主として手数料関連費用の18%減

及び一般管理費の5%減によるものです。非戦略的事業の営業費用合計は、22億5,300万CHFで前年同期を307%上回りましたが、これは主としてプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の非戦略的事業の業績で認識された訴訟和解関連費用16億1,800万CHFの計上によるものです。2014年第2四半期の事業再編費用は1億5,300万CHFでした。

2014年第2四半期の**法人税**は、3億700万CHFで、これは各地域の業績の合計、スイス会計基準の変更による期間差異項目に対するスイスの繰延税金資産の追加計上、英国の繰延税金資産の再評価による純営業損失に対する繰延税金資産の取り崩しを反映したものです。全体として、正味繰延税金資産は、2014年第1四半期に比べて1億2,200万CHF減少し、2014年第2四半期末現在で51億3,400万CHFとなりました。純営業損失に対する繰延税金資産は、2014年第2四半期中に6億7,800万CHF減少し、7億5,800万CHFとなりました。2014年第2四半期のコア業績の実効税率は-83.0%（2014年第1四半期は38.8%）でした。実効税率は、訴訟和解関連費用の大部分が控除対象外であることを反映しています。この影響分を除いた場合の2014年第2四半期のコア業績の実効税率は、26.2%となります。

2014年第2四半期の**重要な訴訟問題**：2014年5月、クレディ・スイス・グループは、すべての未解決の米国クロスボーダー問題について包括的かつ最終的な和解に応じました。これには、米国法務省、ニューヨーク金融サービス局、米国連邦準備制度理事会（FRB）、及び以前に告知した米国証券委員会（SEC）との合意が含まれています。最終和解金は28億1,500万米ドル（25億1,000万CHF）でした。過去数四半期にわたり、本件について積み立てた訴訟関連引当金は合計8億9,200万CHFでした。この結果、税額調整前訴訟関連費用16億1,800万CHFを、2014年第2四半期にプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の非戦略的事業業績において認識しました。今回の和解には、クレディ・スイス・グループのスイス国内銀行業務部門「クレディ・スイス・エイ・ジー」による罪状を認める答弁が含まれています。

**他の訴訟問題**：クレディ・スイス・グループが見積り可能な訴訟の既存引当金で網羅されない合理的な可能性のある損失の総計は、2014年第1四半期末現在のゼロから24億CHFの範囲から、2014年第2四半期末現在のゼロから10億CHFの範囲にまで減少しました。

2014年第2四半期の**継続事業からの希薄化後1株当たり損失**は、0.45CHF（前年同期は0.53CHF、2014年第1四半期は0.47CHFの1株当たり利益）でした。

**資本及びレバレッジ**：2014年第2四半期末現在のクレディ・スイス・グループのルックスルーのBIS普通株式等Tier1（CET1）比率は9.5%（2014年第1四半期末現在は10.0%）でした。2014年第2四半期末現在のルックスルーのスイス国内自己資本比率は15.3%（2014年第1四半期は15.0%）でした。

2014年第2四半期末現在のBIS CET1比率は13.8%（2014年第1四半期末現在は14.3%）でした。これは主としてCET1資本の減少によるものです。グループ全体のバーゼル3リスク加重資産は、2014年第2四半期末現在の2,854億CHFで安定的に推移しましたが、これは信用評価調整（CVA）関連信用リスクの減少と市場リスクの低下が、信用リスク（CVAを除きます。）及びオペレーショナル・リスクの増加並びに外国為替換算の影響による増加によって大部分相殺されたことによるものです。

2014年第2四半期末現在のクレディ・スイス・グループのレバレッジ・エクスポージャーは、1兆1,560億CHFでした（新規長期目標は、約1兆CHF）。2014年第2四半期末現在のルクスルーのスイス国内レバレッジ比率は3.7%でした（2019年の必要要件は4%）。

**統合事業モデルのメリット：**2014年第2四半期中に、クレディ・スイス・グループは、統合事業モデルから10億CHFのコラボレーション収益を創出しました。この金額は、当グループの2014年第2四半期のコア純収益の15.4%に相当します。

### プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門

2014年第2四半期の税引前純損失は7億4,900万CHF、純収益は30億4,600万CHFでした。同部門の戦略的事業においては、税引前利益は8億8,200万CHF、純収益は29億3,200万CHFでした。前年同期と比較して、戦略的事業の税引前利益は13%減少しましたが、これは主として、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益と純利息収入の減少が、営業費用の減少によって一部相殺されたことによるものです。また純収益は、2014年第1四半期に比べやや減少しましたが、これは主として、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益並びにその他の収益の減少によるものです。同部門の非戦略的事業においては、16億3,100万CHFの税引前損失を計上しましたが、これは主として、すべての未解決の米国クロスボーダー問題の最終的な和解に関する16億1,800万CHFの訴訟和解費用の計上によるものです。2014年第2四半期の同部門の運用資産残高は1兆3,297億CHFで、同部門は101億CHFの新規純資産を獲得しました。

#### プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>公表業績（単位：百万CHF）</b>								
<b>純収益</b>	3,046	3,240	3,419	(6)	(11)	6,286	6,697	(6)
<b>貸倒引当金繰入額</b>	23	33	46	(30)	(50)	56	74	(24)
従業員報酬及び給付費用	1,235	1,290	1,353	(4)	(9)	2,525	2,732	(8)
その他の営業費用合計	2,537	905	1,103	180	130	3,442	2,093	64
<b>営業費用合計</b>	<b>3,772</b>	<b>2,195</b>	<b>2,456</b>	<b>72</b>	<b>54</b>	<b>5,967</b>	<b>4,825</b>	<b>24</b>
<b>税引前利益</b>	<b>(749)</b>	<b>1,012</b>	<b>917</b>	-	-	<b>263</b>	<b>1,798</b>	<b>(85)</b>
<b>指標（%）</b>								
資本利益率	-	31.0	28.0	-	-	4.0	28.6	-
費用/収入比率	123.8	67.7	71.8	-	-	94.9	72.0	-

### 戦略的事業業績

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業業績は、ウェルス・マネジメント顧客事業、コーポレート&インスティテューショナル顧客事業、アセット・マネジメント事業の各事業から構成されています。

**プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門—戦略的事業業績**

	期/期末			増減率(%)		期/期末		増減率(%)
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>戦略的事業業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
純利息収入	954	963	1,054	(1)	(9)	1,917	2,073	(8)
経常手数料収益	1,136	1,139	1,155	0	(2)	2,275	2,256	1
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	865	919	1,033	(6)	(16)	1,784	1,907	(6)
その他の収益	(23)	10	(10)	-	130	(13)	4	-
<b>純利益</b>	<b>2,932</b>	<b>3,031</b>	<b>3,232</b>	<b>(3)</b>	<b>(9)</b>	<b>5,963</b>	<b>6,240</b>	<b>(4)</b>
貸倒引当金繰入額	30	17	19	76	58	47	42	12
営業費用合計	2,020	2,049	2,198	(1)	(8)	4,069	4,427	(8)
税引前利益	882	965	1,015	(9)	(13)	1,847	1,771	4
<b>指標 (%)</b>								
資本利益率	28.0	31.6	33.5	-	-	29.8	30.3	-
費用/収入比率	68.9	67.6	68.0	-	-	68.2	70.9	-

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の戦略的事業の2014年第2四半期の税引前利益は8億8,200万CHF、純収益は29億3,200万CHFでした。

2014年第2四半期の純収益は、前年同期を9%下回りましたが、これは主として、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少並びに純利息収入の減少によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの減収は、ほとんどの主要収益カテゴリー（主として、外国為替顧客事業、プライベート・エクイティの実現利益に対する成功報酬、Hedging-Griffo社からの半期パフォーマンス・フィーなど）にわたる減収によるものです。低金利環境において、純利息収入は、平均預金残高の安定的な推移に対する預金金利の大幅な利ざやの減少と平均貸付残高の増加に対する貸出金利の利ざやの若干の減少によるものです。経常手数料等収入の微減は、投資商品運用手数料収入の減少が、投資顧問報酬収入の増加及び資産運用手数料収入の微増によって一部相殺されたことによるものです。

2014年第2四半期の純収益は、2014年第1四半期を3%下回りましたが、これは主として、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少並びにその他の収益の減少によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの減収は、仲介及び金融商品発行手数料収入、運用報酬及び成功報酬収入、プレースメント及びトランザクション・フィー収入の各減少並びに外国為替顧客事業の低迷が、資本参加益の増加によって一部相殺されたことによるものです。その他の収益の減少は、主としてClock Finance社に関する信用証券化取引の公正価値評価損によるものです。安定した純利息収入は、平均預金残高の安定的な推移に対する預金金利の利ざやの減少及び平均貸出残高の微増に対する貸出金利の安定した利ざやによるものです。経常手数料収入の安定的な推移は、主としてバンキング・サービス手数料収入と投資商品運用手数料収入の減少が、資産運用手数料収入及び投資顧問報酬収入の微増によって大部分相殺されたことによるものです。

貸倒引当金繰入額は、3,000万CHF（前年同期は1,900万CHF、2014年第1四半期は1,700万CHF）でした。

2014年第2四半期の営業費用合計は、前年同期を下回りましたが、2014年第1四半期と比べ安定的に推移しました。従業員報酬及び給付費用は、前年同期を7%下回りましたが、これは主として給与関連費用の減少（人員の減少による）によるものです。一般管理費は7%減少しましたが、これは主として、現行の効率化措置の結果と経費引当金の減少によるものです。2014年第1四半期と比べて、従業員報酬及び給付費用は、3%減少しましたが、これは裁量業績連動報酬

金額の減少によるものです。一般管理費の微増は、主として出張及び接待費用の増加と支払報酬の微増によるものです。

2014年第2四半期の戦略的事業の費用/収入比率は69%で、前年同期及び2014年第1四半期をそれぞれ1ポイント上回りました。

**ウェルス・マネジメント顧客事業**

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>戦略的事業業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
純利息収入	688	706	778	(3)	(12)	1,394	1,524	(9)
経常手数料収益	728	730	750	0	(3)	1,458	1,467	(1)
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	601	638	711	(6)	(15)	1,239	1,335	(7)
<b>純収益</b>	<b>2,017</b>	<b>2,074</b>	<b>2,239</b>	<b>(3)</b>	<b>(10)</b>	<b>4,091</b>	<b>4,326</b>	<b>(5)</b>
貸倒引当金繰入額	17	16	20	6	(15)	33	39	(15)
営業費用合計	1,431	1,480	1,598	(3)	(10)	2,911	3,212	(9)
税引前利益	569	578	621	(2)	(8)	1,147	1,075	7
<b>指標 (%)</b>								
費用/収入比率	70.9	71.4	71.4	-	-	71.2	74.2	-

ウェルス・マネジメント顧客事業の2014年第2四半期の税引前利益は5億6,900万CHF、純収益は20億1,700万CHFでした。純収益は、前年同期を10%下回りましたが、これはトランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少、純利息収入の減少、経常手数料収益の微減によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少は、主として、市場活動の低迷が、外国為替顧客事業及び仲介・金融商品発行手数料収入、並びに資本参加収入の減少によるものですが、これらは、Six Group AGの持分に関連した2013年第2四半期の増配と Hedging-Griffoからの運用報酬収入の減少によるものです。純利息収入の減少は、安定した平均預金に対して預金金利の利ざやが大幅に減少し、平均貸出残高に対して貸出金利の利ざやが減少する低金利環境、並びに安定資金供給源として分類される預金量の減少によるものです。経常手数料収益は、やや減少しましたが、これは投資商品運用手数料収入の減少と投資口座及びサービス手数料収入の微減が、投資顧問報酬収入の増加とバンキング・サービス手数料の微増によって一部相殺されたことによるものです。

2014年第2四半期の純収益は2014年第1四半期と比べて3%減少しましたが、これは、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少と純利息収入の微減によるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少は、主として仲介及び金融商品発行手数料収入の減少とプレースメント及びトランザクション手数料の収益の減少が、資本参加収入の増加によって一部相殺されたことによるものです。純利息収入の減少は、安定的に推移した平均預金残高と貸出預金残高の微増に対する預金金利と貸出金利の利ざやが減少したことによるものです。経常手数料収入は、投資商品運用手数料収入の減少とバンキング・サービス収入の減少で安定的に推移しましたが、これは口座明細手数料収入の減少が、その他のカテゴリーの増収によって相殺されたことによるものです。

2014年第2四半期のグロス・マージンは、99bpで、前年同期を13bp下回りましたが、これは主として、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収入の減少、長引く不利な金利環境、平均運用資産の2.5%増加によるものです。グロス・マージンは、2014年第1四半期を5bp下回りましたが、これは平均運用資産の2.7%増加、顧客構成の変化、フィー・ベース収益の減少、純利息収入の微減によるものです。

2014年第2四半期のウェルス・マネジメント顧客事業のネット・マージンは、28 bpで、前年同期を3 bp下回りましたが、これはトランザクション及びパフォーマンス・ベースの収入と純利息収入の減少が、営業費用の減少によって一部相殺されたことによるものです。ネット・マージンは、2014年第1四半期を1 bp下回りましたが、これは税引前利益の微減によるものです。

**コーポレート&インスティテューショナル顧客事業**

	期/期末			増減率(%)		期/期末		増減率(%)
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>戦略的事業業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
純利息収入	266	257	276	4	(4)	523	549	(5)
経常手数料収益	113	122	115	(7)	(2)	235	226	4
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	118	117	127	1	(7)	235	248	(5)
その他の収益	(22)	(4)	(6)	450	267	(26)	(11)	136
<b>純利益</b>	<b>475</b>	<b>492</b>	<b>512</b>	<b>(3)</b>	<b>(7)</b>	<b>967</b>	<b>1,012</b>	<b>(4)</b>
貸倒引当金繰入額	13	1	(1)	-	-	14	3	367
営業費用合計	251	245	251	2	0	496	508	(2)
<b>税引前利益</b>	<b>211</b>	<b>246</b>	<b>262</b>	<b>(14)</b>	<b>(19)</b>	<b>457</b>	<b>501</b>	<b>(9)</b>
<b>指標 (%)</b>								
費用/収入比率	52.8	49.8	49.0	-	-	51.3	50.2	-

コーポレート&インスティテューショナル顧客事業の2014年第2四半期の税引前利益は2億1,100万CHF、純収益は4億7,500万CHFでした。純収益は、前年同期を7%下回りましたが、これは主として、その他の収益の減少、純利息収入の減少、トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の微減によるものです。その他の収益の減少は、Clock Finance取引の時価評価額の減少によるものです。純利息収入の減少は、低金利環境、平均預金残高の増加に対する預金金利の利ぎやの微減、安定的な資金源として適格な預金レベルの減少が、平均貸出残高の増加に対する貸出金利の利ぎやの微増によって一部相殺されたことによるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の減少は、販売及びトレーディング収入の減少、仲介及び金融商品発行収入の減少、外国為替顧客事業の若干の低迷によるものです。経常手数料収入の微減は投資商品運用収入とバンキング・サービス手数料収入の減少が、投資顧問報酬の増加によって一部相殺されたことによるものです。

2014年第1四半期と比べて、2014年第2四半期の純収益は3%減少しましたが、これはその他の収益の減少と経常手数料収入の減少が、純利息収入の増加によって一部相殺されたことによるものです。その他の収益の減少は、Clock Finance取引の時価評価額の減少によるものです。経常手数料収入の減少は、主としてバンキング・サービス収入の減少によるものです。純利息収入の増加は、平均貸出残高の微増に対する貸出金利の利ぎやの増加が、安定した平均預金残高に対する預金金利の利ぎやの減少によって一部相殺されたことによるものです。トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益の安定的推移は、資本参加収入の増加が、外国為替顧客事業の若干の低迷によって一部相殺されたことによるものです。

**アセット・マネジメント事業**

	期／期末			増減率(%)		期／期末		増減率(%)
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>戦略的事業業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
経常手数料収益	295	287	290	3	2	582	563	3
トランザクション及びパフォーマンス・ベースの収益	146	164	195	(11)	(25)	310	324	(4)
その他の収益	(1)	14	(4)	-	(75)	13	15	(13)
<b>純利益</b>	<b>440</b>	<b>465</b>	<b>481</b>	<b>(5)</b>	<b>(9)</b>	<b>905</b>	<b>902</b>	<b>0</b>
内フィー・ベース収益	428	438	467	(2)	(8)	866	854	1
貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-	0	0	-
営業費用合計	338	324	349	4	(3)	662	707	(6)
税引前利益	102	141	132	(28)	(23)	243	195	25
<b>指標 (%)</b>								
費用／収入比率	76.8	69.7	72.6	-	-	73.1	78.4	-

アセット・マネジメント事業の2014年第2四半期の税引前利益は1億200万CHF、純収益は4億4,000万CHFでした。純収益は、前年同期を9%下回り、これは、フィー・ベース収益の8%減少によるものですが、この減収は、プライベート・エクイティの実現利益に対する成功報酬収入の減少と、それぞれの最高水準を下回る年初来(YTD)リターンによるHedging-Griffoからの運用報酬収入がなかったことが、平均運用資産の増加によるプレースメント手数料収入の増加と資産運用手数料収入の微増によって一部相殺されたことによるものです。純収益は、2014年第1四半期対比5%減で、これは、フィー・ベース収益の減少によるものですが、この減収はプライベート・エクイティの実現利益に対する成功報酬収入の減収と不動産取引収入の減少が、資産運用手数料収入の微増とプレースメント手数料収入の増加によって一部相殺されたことによるものです。

2014年第2四半期のフィー・ベース・マージンは46bp(前年同期は53bp、2014年第1四半期は49bp)で、これは主として、フィー・ベースの収益の減少と平均運用資産残高の増加によるものです。2014年第2四半期の平均運用資産残高は前年同期を5.8%、2014年第1四半期を3.5%、それぞれ上回りました。

**非戦略的事業業績**

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の非戦略的事業業績には、旧アセット・マネジメント部門の再編に関連したポジション、小規模市場撤退施策に関連したランオフ(漸次縮小)業務と一部のレガシー・クロスボーダー関連ランオフ業務、訴訟関連費用(主として米国クロスボーダー問題関連)、ドイツ・オンショア業務再編の影響分、その他旧コーポレート&インスティテューショナル顧客事業における非戦略的ポジションの縮小、いくつかの金融商品のランオフ及び積極的な削減などが含まれています。

**プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門—非戦略的事業業績**

	期／期末			増減率(%)		期／期末		増減率(%)
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>非戦略的事業業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
純利益	114	209	187	(45)	(39)	323	457	(29)
貸倒引当金繰入額	(7)	16	27	-	-	9	32	(72)
営業費用合計	1,752	146	258	-	-	1,898	398	377
税引前利益/(損失)	(1,631)	47	(98)	-	-	(1,584)	27	-
<b>指標 (%)</b>								
費用／収入比率	-	69.9	138.0	-	-	-	87.1	-

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の2014年第2四半期の非戦略的関連事業は、16億3,100万CHFの税引前損失を計上しましたが、これは、すべての未解決米国クロスボーダー問題の最終的な和解に関連した訴訟和解関連費用16億1,800万CHFの計上によるものです。2014年第1四半期には、同部門の非戦略的関連事業は、4,700万CHFの税引前利益を計上しましたが、これには、2014年1月のCustomized Fund Investment Group（プライベート・エクイティ・オブ・ファンド・オブ・ファンズ及び共同投資事業）の売却による資本参加利益9,100万CHFが含まれています。

### プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の運用資産

2014年第2四半期末現在の運用資産は、1兆3,297億CHFで、2014年第1四半期末現在を372億CHF上回りましたが、これは主として、ポジティブな市場動向、新規純資産及び当社に有利な外国為替関連動向によるものです。

**新規純資産：**プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門は、2014年第2四半期に101億CHFの新規純資産を計上しました。戦略的関連事業ポートフォリオにおいて、ウェルス・マネジメント顧客事業は、当四半期に74億CHFの新規純資産の獲得で貢献しましたが、これは、エマージング市場（特にアジア太平洋地域及びスイス）からの継続的かつ堅調な流入が、西欧市場のクロスボーダー流出によって一部相殺されたことによるものです。スイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業は当四半期に6億CHFの新規純資産を計上しました。アセット・マネジメント事業は、当四半期に41億CHFの新規純資産を計上しましたが、これは従来型商品への資産流入（インデックス・ストラテジー事業による大幅な貢献分）、ヘッジ・ファンドと信用商品からの資産流入によって牽引されました。非戦略的関連事業ポートフォリオにおいて、17億CHFの正味資産流出がありました。これは、一部の事業の撤退によるものです。

### プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の運用資産

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>事業別運用資産（十億CHF）</b>								
ウェルス・マネジメント顧客事業	829.7	804.9	782.3	3.1	6.1	829.7	782.3	6.1
コーポレート&インスティテューショナル顧客事業	261.4	254.4	238.3	2.8	9.7	261.4	238.3	9.7
アセット・マネジメント事業	377.1	363.4	346.1	3.8	9.0	377.1	346.1	9.0
非戦略的関連事業	25.9	25.9	83.8	0.0	(69.1)	25.9	83.8	(69.1)
事業全体で運用される資産	(164.4)	(156.1)	(153.9)	5.3	6.8	(164.4)	(153.9)	6.8
<b>運用資産</b>	<b>1,329.7</b>	<b>1,292.5</b>	<b>1,296.6</b>	<b>2.9</b>	<b>2.6</b>	<b>1,329.7</b>	<b>1,296.6</b>	<b>2.6</b>
<b>平均運用資産（十億CHF）</b>								
平均運用資産	1,311.6	1,282.1	1,318.9	2.3	(0.6)	1,296.8	1,302.2	(0.4)
<b>事業別新規純資産（十億CHF）</b>								
ウェルス・マネジメント顧客事業	7.4	10.6	7.7	(30.2)	(3.9)	18.0	13.4	34.3
コーポレート&インスティテューショナル顧客事業	0.6	0.4	(0.2)	50.0	-	1.0	4.3	(76.7)
アセット・マネジメント事業	4.1	6.9	2.6	(40.6)	57.7	11.0	11.1	(0.9)
非戦略的関連事業	(1.7)	(2.3)	(1.4)	(26.1)	21.4	(4.0)	(3.7)	8.1
事業全体で運用される資産	(0.3)	(1.9)	(1.1)	(84.2)	(72.7)	(2.2)	(5.5)	(60.0)
<b>新規純資産</b>	<b>10.1</b>	<b>13.7</b>	<b>7.6</b>	<b>(26.3)</b>	<b>32.9</b>	<b>23.8</b>	<b>19.6</b>	<b>21.4</b>
<b>新規純資産成長率（%）</b>								
新規純資産成長率：ウェルス・マネジメント顧客事業	3.7	5.4	3.9	-	-	4.6	3.5	-
新規純資産成長率：アセット・マネジメント事業	4.5	7.8	3.0	-	-	6.3	6.8	-

## インベストメント・バンキング部門

インベストメント・バンキング部門の2014年第2四半期の税引前利益は7億5,200万CHF、純収益は33億4,200万CHFでした。同部門は堅調な業績を上げましたが、これは多角的な戦略的フランチャイズの強みと非戦略的事業ユニットにおけるリスク加重資産とレバレッジ・エクスポージャーの縮小の加速化によって牽引されました。戦略的事業において、純収益は、前年同期を6%下回りましたが、これは主として、株式販売及び取引業務におけるやや不利な取引状況、グローバル・マクロ商品（特に外国為替とコモディティ）の低迷の継続によって牽引されました。純収益は、2014年第1四半期を5%下回りましたが、これは一部の債券業務及び株式販売及び取引におけるやや不利な取引状況が、引受及びアドバイザリーの各業務の好調な業績を相殺したことによるものです。2014年に、インベストメント・バンキング部門は、非戦略的事業ユニットの縮小を加速化し、2014年第1四半期に比べて、スイス国内のレバレッジ・エクスポージャーを30億米ドル、4%、バーゼル3リスク加重資産を60億米ドル、32%、それぞれ削減しました。

グローバル・マクロ商品業務について、クレディ・スイス・グループは、小規模のコモディティ・トレーディング業務の撤退を決め、縮小期間の業績は、2014年第3四半期から、非戦略的事業ユニットに反映されます。また、既存の外国為替業務の見直しを行い、電子取引と音声情報サービスを組み合わせた、より規模の大きい、より複雑な取引業務の展開を目指し、利回り商品の一層の簡素化を図り、主として、キャッシュ商品及びデリバティブ商品における顧客流動性ニーズの対応へと焦点を絞る計画です。

### インベストメント・バンキング部門

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>公表業績 (単位: 百万 CHF)</b>								
<b>純利益</b>	3,342	3,416	3,400	(2)	(2)	6,758	7,345	(8)
<b>貸倒引当金繰入額</b>	(5)	0	4	-	-	(5)	(2)	150
従業員報酬及び給付費用	1,499	1,521	1,466	(1)	2	3,020	2,951	2
その他の営業費用合計	1,096	1,068	1,176	3	(7)	2,164	2,342	(8)
<b>営業費用合計</b>	<b>2,595</b>	<b>2,589</b>	<b>2,642</b>	0	(2)	<b>5,184</b>	<b>5,293</b>	(2)
<b>税引前利益 / (損失)</b>	<b>752</b>	<b>827</b>	<b>754</b>	(9)	0	<b>1,579</b>	<b>2,054</b>	(23)
<b>指標 (%)</b>								
資本利益率	12.3	13.6	11.0	-	-	13.0	15.8	-
費用 / 収入比率	77.6	75.8	77.7	-	-	76.7	72.1	-

### 戦略的事業業績

インベストメント・バンキング部門の戦略的事業は、2014年第2四半期に税引前利益10億3,400万CHF、純収益33億9,500万CHFを計上しました。当四半期の業績は、スイス・フランに対する米ドルの平均為替レートの下落によってマイナスの影響を受けました。この為替相場は、収益には不利、費用には有利に働きました。債券販売及び取引業務の収益は、前年同期に比べ増加しました。これは、投資家の間で引き続き利回り商品に対する需要があることによるものですが、グローバル・マクロ商品の困難な取引状況によって一部相殺されました。収益は、2014年第1四半期に比べ減少しましたが、これは、グローバル信用商品と証券化商品の業績が、時季的に好調であった2014年第1四半期後、低迷し、これがエマージング市場収益のリバウンド分を上回ったことによるものです。株式販売及び取引は、大変好調であった前年同期に比べて低迷しましたが、これはやや不利な取引状況（具体的には、低ボラティリティ及び低調な取引環境）が

顧客活動の低迷をもたらしたことによるものです。当四半期の収益は2014年第1四半期を下回りましたが、これは主として、当社の株式デリバティブ業務における顧客活動の不振によるものです。引受及びアドバイザーの両業務の業績は、前年同期、2014年第1四半期を、それぞれ上回りましたが、これは、株式引受業務の収益の大幅な増加によるものです。またこの増収は、発行業務が引き続き極めて好調であるためです。

**債券販売及び取引業務**の2014年第2四半期の収益は、引き続き利回り商品（具体的には、低金利環境では、信用商品及び証券化商品）に対する投資家需要があることを反映しています。前年同期の業績は、米国連邦準備制度理事会による国債等を買って市場に資金を供給する量的緩和策の縮小の発表による金利上昇と信用スプレッドの拡大によって取引活動が大幅に低迷し、マイナスの影響を受けました。エマージング市場の収益は、主として資金調達活動の活発化によって大幅に改善しました。当四半期の業績は、法人向け貸出業務による増収も反映しています。証券化商品業務の収益も増加しました。これは、エージェンシー証券及びモーゲッジ・サービシングの増収及びアセット・ファイナンスにおける一貫したパフォーマンスによるものです。グローバル信用商品は、堅調な業績を上げましたが、これは好調な発行業務が投資適格の流通取引とレバレッジド・ファイナンス・フランチャイズの活発化につながったためです。グローバル・マクロ商品の収益は大幅に落ち込みましたが、これは低ボラティリティ環境が、特に外国為替とコモディティの業務における顧客活動の低迷をもたらしたことによるものです。金利商品の収益は、日本と米国における不振によって減少しました。各業績は2014年第1四半期を下回りましたが、これはグローバル信用商品及び証券化商品の業績が、時季的に好調であった2014年第1四半期後、低迷し、エマージング市場の収益のリバウンドをもすっかり相殺したことによるものです。

**株式販売及び取引業務**の2014年第2四半期の収益は、やや不利な取引状況、具体的には低ボラティリティと低調な取引環境によって減少し、顧客活動の低下を招きました。株式販売及び取引業務の収益は、前年同期を下回りましたが、これはシステムティック・マーケット・メーカーの収益の大幅な減少によるものです。この減収は、日本における量的緩和の積極的な影響を含む前年同期に比べ、大幅に不利な取引状況となったことによるものです。当四半期のデリバティブ業務の収益は、大幅なボラティリティの低下が、顧客活動（とりわけ、米国フロー業務）の低迷につながったことにより減少しました。また前年同期の業績が、アジア地域、米国の両市場の好調な業績の恩恵を受けていたこともありました。キャッシュ・エクイティ業務の収益は、手数料収入の減少により大幅に落ち込みました。この減収は、グローバル市場の取引高の減少が、米国における市場シェア拡大を上回ったことによるものです。プライム・サービスの業績は、引き続き市場指導性を発揮できたこと、欧州市場活動の活発化、顧客クリアリング業務の成長により、堅調に推移しました。しかし収益は、主として株式デリバティブ業務における低調な顧客活動によって2014年第1四半期を下回りました。

**引受及びアドバイザー業務**の2014年第2四半期の収益は前年同期、2014年第1四半期をそれぞれ上回りましたが、これは発行業務が引き続き極めて堅調であったことから、株式引受業務の収益が大幅に増加したことによるものです。

**インベストメント・バンキング部門—戦略的事業業績**

	期／期末			増減率(%)		期／期末		増減率(%)
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)</b>								
債券引受業務	483	468	534	3	(10)	951	995	(4)
株式引受業務	268	183	206	46	30	451	363	24
引受業務合計	751	651	740	15	1	1,402	1,358	3
アドバイザー及びその他の報酬	161	180	167	(11)	(4)	341	312	9
<b>引受及びアドバイザー合計</b>	<b>912</b>	<b>831</b>	<b>907</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>1,743</b>	<b>1,670</b>	<b>4</b>
債券販売及び取引	1,485	1,609	1,434	(8)	4	3,094	3,462	(11)
株式販売及び取引	1,119	1,207	1,368	(7)	(18)	2,326	2,684	(13)
<b>販売及び取引合計</b>	<b>2,604</b>	<b>2,816</b>	<b>2,802</b>	<b>(8)</b>	<b>(7)</b>	<b>5,420</b>	<b>6,146</b>	<b>(12)</b>
その他	(121)	(84)	(105)	44	15	(205)	(195)	5
<b>純収益</b>	<b>3,395</b>	<b>3,563</b>	<b>3,604</b>	<b>(5)</b>	<b>(6)</b>	<b>6,958</b>	<b>7,621</b>	<b>(9)</b>
貸倒引当金繰入額	(5)	0	3	-	-	(5)	(4)	25
<b>営業費用合計</b>	<b>2,366</b>	<b>2,439</b>	<b>2,434</b>	<b>(3)</b>	<b>(3)</b>	<b>4,805</b>	<b>4,911</b>	<b>(2)</b>
<b>税引前利益</b>	<b>1,034</b>	<b>1,124</b>	<b>1,167</b>	<b>(8)</b>	<b>(11)</b>	<b>2,158</b>	<b>2,714</b>	<b>(20)</b>
<b>指標 (%)</b>								
資本利益率	18.5	20.5	19.1	-	-	19.5	23.3	-
費用／収入比率	69.7	68.5	67.5	-	-	69.1	64.4	-

営業費用合計は、23億6,600万CHFで、スイス・フラン・ベースで、前年同期を3%下回りました。米ドル・ベースでは、従業員報酬の繰延費用の増加によって前年同期を4%上回りました。これは、新規繰越報酬額が、過年度報酬の付与分を上回ったことによるものです。インベストメント・バンキング部門の戦略的事業においても、未払変動報酬の計上方法の変更による裁量業績連動報酬の費用が増加しました。この費用増加は、テクノロジー関連費用の減少と英国銀行税の減少による一般管理費の減少によって一部相殺されました。当四半期の営業費用合計は、スイス・フラン・ベースで、2004年第1四半期を3%下回りました。これは過去年付与からの繰延報酬費用の減少及び裁量業績連動報酬費用の減少によるものです。さらに、テクノロジー関連費用と英国銀行税の減少によって一般管理費も減少しました。

**資本指標:** 2014年第2四半期末現在、インベストメント・バンキング部門の戦略的事業は、バーゼル3リスク加重資産1,680億米ドル(2014年第1四半期比20億米ドル増)を計上しましたが、同部門の戦略的事業のスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは、7,810億米ドルで、2014年第1四半期から50億米ドル増加しました。

**非戦略的事業業績**

インベストメント・バンキング部門の非戦略的事業業績には、債券の縮小ポートフォリオ、レガシー金利事業(主として非上場商品及び自己資本比率における資本配賦要件の高い仕組商品)、バーゼル3に対応しない社債に関連したレガシー資金調達費用、並びに以前からの訴訟費用及びその他の小規模の非戦略的ポジションが含まれています。

**インベストメント・バンキング部門—非戦略的事業業績**

	期／期末			増減率(%)		期／期末		増減率(%)
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>非戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)</b>								
<b>純収益</b>	<b>(53)</b>	<b>(147)</b>	<b>(204)</b>	<b>(64)</b>	<b>(74)</b>	<b>(200)</b>	<b>(276)</b>	<b>(28)</b>
貸倒引当金繰入額	0	0	1	-	(100)	0	2	(100)
<b>営業費用合計</b>	<b>229</b>	<b>150</b>	<b>208</b>	<b>53</b>	<b>10</b>	<b>379</b>	<b>382</b>	<b>(1)</b>
<b>税引前利益／(損失)</b>	<b>(282)</b>	<b>(297)</b>	<b>(413)</b>	<b>(5)</b>	<b>(32)</b>	<b>(579)</b>	<b>(660)</b>	<b>(12)</b>
リスク加重資産—バーゼル3対応	11,536	16,436	19,159	(30)	(40)	11,536	19,159	(40)

2014年第2四半期に、インベストメント・バンキング部門は、非戦略的事業ユニットの漸次縮小戦略を加速化し、2014年第1四半期に比べ、スイス国内のレバレッジ・エクスポージャーを30億米ドル、バーゼル3リスク加重資産を60億米ドル、それぞれ削減しました。2014年第2四半期の非戦略的事業について、税引前損失2億8,200万CHF、純収益損失5,300万CHFを計上しました。業績には、ポートフォリオ正味評価益並びにレガシー社債及び取引資産双方のポートフォリオ管理における資金調達費用の改善が反映されています。営業費用合計は、前年同期、2014年第1四半期を、それぞれ上回りましたが、これは、主として抵当貸付関連の問題に関連した訴訟関連引当金の積増しによるものです。

2014年第2四半期末現在の同部門の非戦略的事業のバーゼル3リスク加重資産は、130億米ドルで、前年同期を70億米ドル、35%下回りました。また、2014年第1四半期との比較では、60億米ドル、32%の減少となりました。2015年末までの目標額は60億米ドルです。また、2014年第2四半期末現在の非戦略的事業のスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは720億米ドルで、前年同期に比べ210億米ドル、23%、2014年第1四半期に比べ30億米ドル、4%、それぞれ減少しました。2015年末までのスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーの目標額は240億米ドルです。

## コーポレート・センター

コーポレート・センターには、親会社の業務、例えば、グループ・ファイナンス、クレディ・スイス・グループがスポンサーとなっているプロジェクトにかかる費用、部門に配分されていない一部の費用及び収益などが含まれています。また、グループ内企業間の収益及び費用を除外するために必要な連結及び除去調整分も含まれています。

### コーポレート・センター

	期/期末			増減率(%)		期/期末		
	2Q14	1Q14	2Q13	QoQ	YoY	6M14	6M13	YoY
<b>公表業績 (単位: 百万CHF)</b>								
純収益	45	(187)	11	-	309	(142)	(194)	(27)
貸倒引当金繰入額	0	1	1	(100)	(100)	1	1	0
従業員報酬及び給付費用	235	166	95	42	147	401	221	81
その他の営業費用合計	183	85	46	115	298	268	91	195
営業費用合計	418	251	141	67	196	669	312	114
税引前損失	(373)	(439)	(131)	(15)	185	(812)	(507)	60
<b>非戦略的事業業績 (単位: 百万CHF)</b>								
純収益	48	(146)	52	-	(8)	(98)	(146)	(33)
貸倒引当金繰入額	0	0	0	-	-	0	0	-
営業費用合計	272	144	88	89	209	416	170	145
税引前利益/(損失)	(224)	(290)	(36)	(23)	-	(514)	(316)	63

コーポレート・センターは、2014年第2四半期に税引前損失3億7,300万CHFを計上しました。これには、事業再編費用1億3,600万CHF、IT構築簡素化費用8,100万CHFが含まれています。また当四半期業績には、自社社債の公正価値評価損2,900万CHF、単独デリバティブの公正価値評価益1,500万CHF、ストラクチャード・ノート負債の借方評価調整に伴う利益400万CHFが含まれており、この結果、自社の信用スプレッドの変動による評価損1,000万CHFが2014年第2

四半期に計上されました。前年同期は1億3,100万CHFの税引前損失、2014年第1四半期は4億3,900万CHFの税引前損失でした。

## 貸借対照表、株主資本及び規制資本

### 貸借対照表

2014年第2四半期末現在の資産合計は8,916億CHFで、2014年第1四半期に比べ2%増加しました。これは、業務活動の増加と外国為替換算の影響によるものです。外国為替換算調整による影響分を除いた場合、資産合計は103億CHF増加しました。

### 株主資本合計

クレディ・スイス・グループの2014年第2四半期末現在の株主資本合計は、409億CHF（2014年第1四半期末現在は432億CHF）に減少しました。株主資本合計は、配当金の支払い、株式ベースの報酬の付与及び純損失によってマイナスの影響を受けました。これらの変動は、株式ベースの報酬義務の増加及び外国為替の変動が累積換算調整にもたらす影響によって一部相殺されました。2014年第2四半期末現在のクレディ・スイス・グループの発行済株式数は、16億720万株です。

### 規制資本及び比率－バーゼル3

2014年第2四半期末現在のCET 1比率は、13.8%で、2014年第1四半期末現在の14.3%を下回りましたが、これはCET 1資本の減少によるものです。クレディ・スイス・グループの2014年第2四半期末現在のTier 1比率は、16.0%、2014年第1四半期末現在は15.6%でした。2014年第2四半期末現在の自己資本比率は、19.5%で、2014年第1四半期末現在は19.1%でした。

2014年第2四半期末現在のCET 1資本は395億CHFで、2014年第1四半期末現在の409億CHFを下回りましたが、これは主として、純損失と株式ベースの報酬の正味影響によるものです。CET 1資本は、四半期ごとに計上している未払配当金の影響も受けます。

追加Tier 1資本は、61億CHFに増加しましたが、これは主として、2014年6月に25億米ドル相当の6.25%のTier 1キャピタル・ノートを発行したことによるものです。2014年第2四半期末現在のTier 2資本は、若干増加して101億CHFとなりました。

2014年第2四半期末現在の適格資本合計は、2014年第1四半期末現在の546億CHFに対して556億CHFでしたが、これは追加Tier 1資本の増加がCET 1資本の減少によって一部相殺されたことによるものです。

2014年第2四半期末現在のルックスルーのCET 1比率は、2014年度末の期待比率の10%超、長期目標の11%に対して、9.5%でした。

**資本比率 – バーゼル 3**

期末現在	段階的实施			ルックスルー		
	2Q14	1Q14	4Q13	2Q14	1Q14	4Q13
<b>BIS基準資本比率 (%)</b>						
CET1比率	13.8	14.3	15.7	9.5	10.0	10.0
Tier 1比率	16.0	15.6	16.8	13.1	12.8	12.8
自己資本比率	19.5	19.1	20.6	15.4	15.1	15.1

**スイス規制資本及び比率**

2014年第2四半期末現在のスイス国内 CET 1 資本比率は 13.7%、スイス国内自己資本比率は 19.4%であり、これに対してスイス国内資本比率段階的導入要件は、それぞれ 6.75%、10.18%でした。

ルックスルー・ベースでは、2014年第2四半期末現在のスイス国内の CET 1 資本は 262 億 CHF、スイス国内 CET 1 比率は 9.4%でした。ルックスルー・ベースの、2014年第2四半期末現在のスイス国内の適格自己資本は 429 億 CHF、スイス国内の自己資本比率は 15.3%でした。

**スイス国内レバレッジ比率**

2014年第2四半期末現在のスイス国内レバレッジ比率は 4.8%、合計平均エクスポージャーは 1 兆 1,592 億 CHF でした。2014年第2四半期末現在のスイス国内の合計エクスポージャーは、1 兆 1,560 億 CHF でした。クレディ・スイス・グループの新規長期目標は約 1 兆 CHF です。2014年第2四半期末現在のルックスルーのスイス国内レバレッジ比率は 3.7%であるのに対し、2019年の必要要件は 4.0%です。

**スイス国内レバレッジ比率**

期末現在	段階的实施			ルックスルー		
	2Q14	1Q14	4Q13	2Q14	1Q14	4Q13
<b>レバレッジ比率 (%)</b>						
スイス国内レバレッジ比率	4.8	4.8	5.1	3.7	3.7	3.7

###